

## 当月のS&amp;P MLP 指数の動き

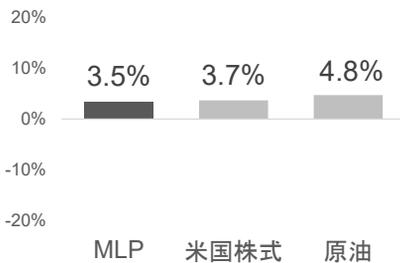
5月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+7.2%と6カ月連続での上昇となりました。

EU(欧州連合)によるロシア産原油の禁輸方針が伝えられたことを受け、需給ひっ迫観測が広がったことなどから、原油価格が上昇基調となる中、MLPも上昇基調となりました。中旬には、米小売大手の業績見通しの引き下げなどが嫌気され、米国株式とともに、MLPも下落する場面がみられたものの、月末にかけては、米週間統計で原油価格の在庫が予想以上に減少したことや米小売大手による予想を上回る決算の発表などが好感され、米国株式、MLPともに上昇基調となりました。

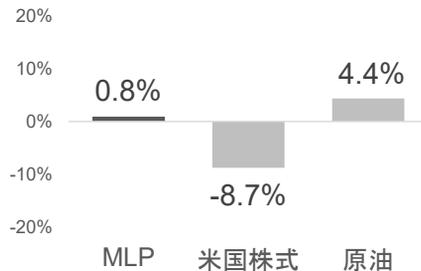
## 過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

## 2022年3月



## 2022年4月



## 2022年5月



## 主要指標の動き

MLP:S&amp;P MLP 指数、米国株式:S&amp;P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3カ月前月末	前年末	前月末比	3カ月前月末比	前年末比
	2022/5/31	2022/4/30	2022/2/28	2021/12/31			
<b>S&amp;P MLP 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	5,852.23	5,460.47	5,235.41	4,495.14	7.2%	11.8%	30.2%
プライスリターン	1,343.52	1,267.76	1,225.95	1,071.99	6.0%	9.6%	25.3%
<b>S&amp;P 500種 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	8,712.60	8,696.65	9,186.37	9,986.70	0.2%	-5.2%	-12.8%
プライスリターン	4,132.15	4,131.93	4,373.94	4,766.18	0.0%	-5.5%	-13.3%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,375.95	1,188.53	1,107.84	868.26	15.8%	24.2%	58.5%
プライスリターン	658.00	572.41	534.95	422.74	15.0%	23.0%	55.7%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,687.56	1,798.15	1,766.08	1,959.66	-6.2%	-4.4%	-13.9%
プライスリターン	363.00	387.38	382.90	425.81	-6.3%	-5.2%	-14.8%
<b>米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,456.32	1,452.69	1,521.60	1,578.79	0.3%	-4.3%	-7.8%
プライスリターン	69.29	69.46	73.46	76.94	-0.2%	-5.7%	-9.9%
<b>米国10年国債利回り</b>							
	2.84%	2.93%	1.82%	1.51%	-0.09	1.02	1.33
<b>原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>							
	114.67	104.69	95.72	75.21	9.5%	19.8%	52.5%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>							
	8.15	7.24	4.40	3.73	12.4%	85.0%	118.4%
<b>米ドル(対円)</b>							
	128.67	129.70	115.00	115.08	-0.8%	11.9%	11.8%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

## 当月の出来事いろいろ

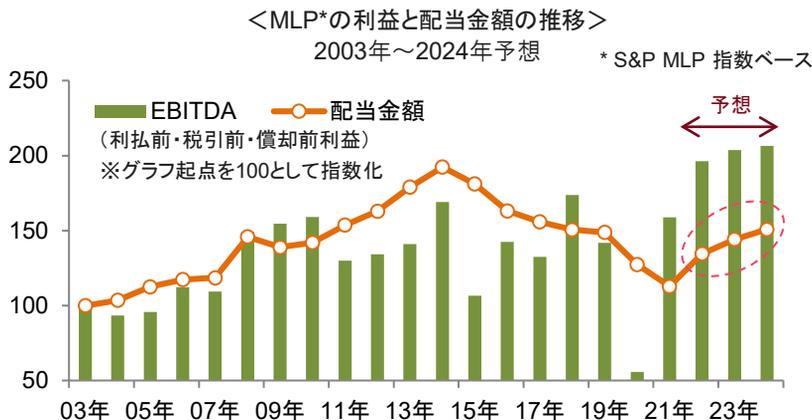
- 4日、EUは、ロシアに対する追加制裁として、同国産の原油の輸入を6カ月以内に、石油製品の輸入を年内に、それぞれ段階的に停止する措置などを欧州議会に提案した。需給がひっ迫するとの観測などから、原油先物価格が急反発したほか、エネルギー関連株が買われた。
- 5日、OPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスが、6月も従来の緩やかな原油増産(協調減産の縮小)ペースを維持すると決めたことなどから、原油先物価格は続伸した。
- 8日、G7(主要7カ国)首脳は、ロシアに対する追加制裁として、ロシア産原油の輸入を禁止する方針を表明した。
- 9日、中国で発表された4月の貿易統計において輸出入がともに不振だった。また、同国において行動規制が長引いていることなどを受け、景気減速懸念が拡がった。このような中、サウジアラビアがアジアや欧州向けの原油価格に上乘せする調整金を6月から引き下げる方針と伝わったこともあり、原油先物価格は大幅安となった。
- 11日、ロシアからウクライナ経由でEUに天然ガスを送るパイプラインの一部が停止となった。代替需要が見込まれるとして、原油先物価格が急反発した。その後も、原油先物価格は上昇を続け、16日、中国・上海市の行動規制が6月に段階的に解除される方針との発表などを受け、一段と大きく上昇した。
- 30日夜遅く、EU首脳会議においてロシア産原油の禁輸が合意されたことを受け、31日に原油価格が上昇し、WTI先物価格は一時1バレル＝119.98米ドルを付けた。

## 今後の注目点

- 米国の金融引き締めによる景気への影響のほか、中国・上海市における行動制限の解除を受けた景気回復の行方などが注目される。

## MLPの配当金額見通し

2022年1-3月期の決算では、配当金額を前年同期比で増配するMLPが多くみられました。なお、市場予想によると、MLPの配当金額は2022年以降、増加すると見込まれています。

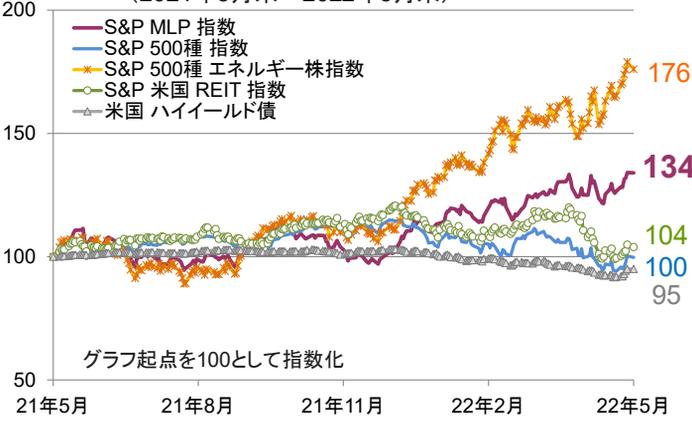


信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

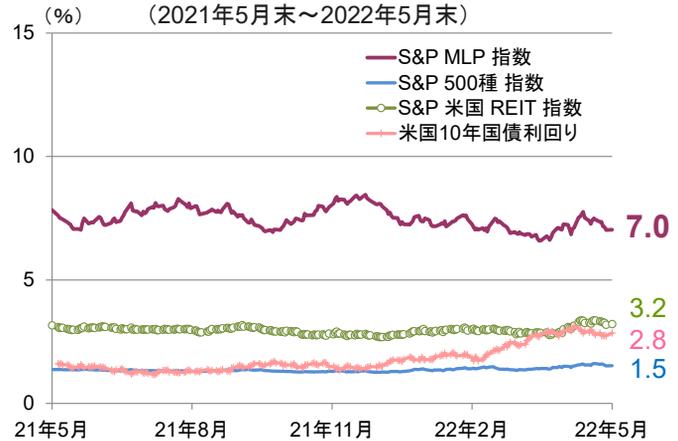
※ 上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

※ 予想は2022年6月2日時点のコンセンサス予想

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)  
(2021年5月末～2022年5月末)



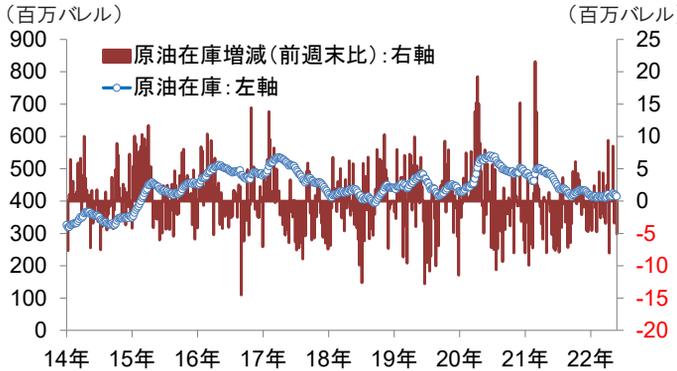
■過去1年の各資産の利回り  
(2021年5月末～2022年5月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。  
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。  
 ※各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

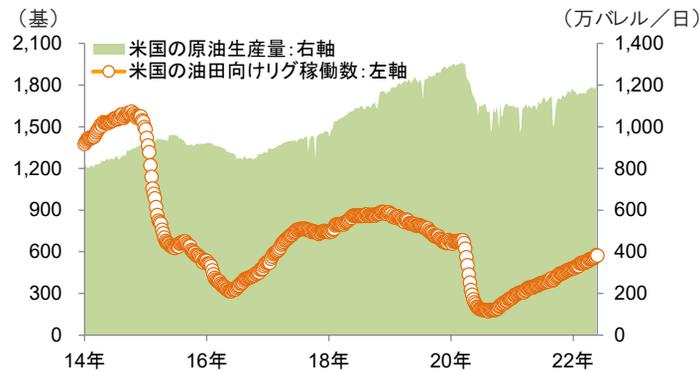
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2022年5月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2022年5月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2022年5月31日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)  
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。